

防災科研ニュース

特集

- ・地震ハザードステーション J-SHIS
- ・災害事例データベースの構築
- ・個人防災行動支援システムの研究開発
- ・e コミュニティ・プラットフォーム2.0の紹介
- ・地域の防災力を高める手法の開発

行事開催報告

- ・阪神・淡路大震災から15年 ～地震防災研究はどう変わったか～

- ・第14回震災・自然災害対策技術展
- ・「フィリピン地震火山監視強化」のキックオフ会合
- ・第4回シンポジウム「統合化地下構造データベースの構築 ～利活用に向けての展望と課題～」
- ・防災研究フォーラム「気候変動と激甚化する自然災害」で第8回シンポジウム

出版物のご案内

- ・地域防災のイノベーションを目指して
- ・つくば市民レポーターが目指すもの



特集

災害リスクに知で備える～災害リスク情報プラットフォーム～

私たちの生活は、地震、津波、火山噴火、豪雨、地すべり、雪崩などの自然災害の「リスク」と切り離すことができません。これまで自然災害に対しては、堤防や耐震化などのハード対策から、ハザードマップの作成や配布などのソフト対策まで、様々な対策がとられてきました。しかし、それでも自然災害の「リスク」をゼロにすることはできません。自然災害の発生メカニズムの複雑さに加え、地球規模での環境変化や少子高齢化などの社会構造の変化により、私たち一人ひとりが被りうる自然災害の「リスク」は常に変動しながら存在しています。

自然災害を被る「リスク」が一人ひとりにある以上、「防災対策」も一人ひとりに必要です。そこで、防災科研では、誰もが自らに被りうる自然災害の「リスク」を知り、自らに適した「防災対策」を立案・実行していく社会を目指し、そのための素材である災害リスク情報と、道具・手段としての情報環境を提供するため、「災害リスク情報プラットフォーム」の研究開発に

着手しました。

災害リスクに関する情報は、現状では、様々な国の機関や自治体、民間事業者に散在していて、それらを総合して適切な防災対策を行うことが困難な状況にあります。こうした状況を改善するため、「災害リスク情報プラットフォーム」の開発プロジェクトでは、災害リスクの評価システム、その利活用システムの研究開発、また、それら活動を支えるための、災害リスク情報の相互運用環境の研究開発を実施することにより、これまでに培われた自然災害に関する科学的研究成果や観測ネットワークから得られる各種情報などの「専門知」、過去の災害履歴や被災経験・体験に基づき知り得た「経験知」、地域特性など自分たちが生まれ育った地域に対して自然に身につけてきた「地域知」など、さまざまな「知」の融合を目指しています。それらの「知」を最大限に活かすことにより、一人ひとり、そして社会全体の防災力を向上させるためのイノベーションの創出に取り組む予定です。